

主 題	生きる力の支援		
副 題	シーティングの軌跡		
食事・栄養・口腔ケア		リハビリ	研究期間 27か月

事業所	特別養護老人ホーム フローラ石神井公園		
発表者：岡野奈央美（おかのなおみ）		アドバイザー：渡邊玲子、武藤祐太	
共同研究者：高橋奈津美、田中ゆりえ、中村奈津美			

電 話	03-3996-6600	E-mail	soudanin@flora.or.jp
FAX	03-3996-5551	URL	http://www.flora.or.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	平成 15 年開設、90 床の特別養護老人ホームです。福祉事業の多様化を受けて地域の皆様の方々にどのようなサービスが提供できるのか、またどのようなサービスが求められているのか根本的に考え、福祉事業を行う法人として社会的な見地からそれぞれのニーズにあったより質の高いサービスを選定し豊かな生活の礎をつくるお手伝いをしていきます。
------------------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

加齢と共に身体機能の低下や介護度が重度化していく中で食事介助時の首ののけぞり、身体の傾きが見られ嚥下力の低下の原因や食事量の低下につながっていく。

車椅子や椅子上でのアテンドクッションを使用するなどのシーティングを行ってはいるものの傾きや反り返りを抑えるだけの穴埋めのような対応を行っていた為効果が一時的であり個々のレベルに合ったシーティングが明確になっていないことが現状としてあった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

シーティング方法を改善し ADL の低下が QOL の低下に繋がらないようにする。

- ① 正しい姿勢での嚥下機能の維持
- ② 食事量の増加
- ③ 自己摂取を促し食事に対する関心を持っていただく。
- ④ 離床時間を増やし生活への意欲を向上さ

せる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

○身体の傾きのあるお客様

- ・車椅子上で左右の傾きがあるお客様に対しては両側の車椅子の隙間を埋めて姿勢を安定させる為、アーチクッションを使用する。
- ・椅子上で右傾きのあるお客様に対しては倒れている骨盤を矯正的に元の位置に修正し座位を安定させる為、椅子の右側の足にペットボトルの補助具を使用する。

○身体の傾きのあるお客様

- ・車椅子上で左右の傾きがあるお客様に対しては両側の車椅子の隙間を埋めて姿勢を安定させる為、アーチクッションを使用する。

- ・椅子上で右傾きのあるお客様に対しては倒れている骨盤を矯正的に元の位置に修正し座位を安定させる為、椅子の右側の足にペットボトルの補助具を使用する。

○車椅子上の座位が不安定なお客様

車椅子の座面シートのたわみを修正し座位を安定させる為、車椅子のクッションの下にダンボールのシートを使用する。

○車椅子よりずり落ちてしまうお客様

座骨が滑らないように高さをつける為、車椅子の座面前側に丸めたクッションを使用する。

《4. 取り組みの結果と考察》

嚥下しやすい体勢などお客様自身で食事を摂取しやすい環境を作ることができた。

○身体の傾きのあるお客様・車椅子よりずり落ちてしまうお客様

- ・安定した姿勢が保持することができ、お客様の中には長時間の離床が可能になった。
- ・前傾姿勢で食事介助をしていた方がご自分でスプーンを持つようになった。
- ・食事量も増加し、それに伴い体重も増加が見えた。
- ・研究前は「早く寝たい」や「痛い」など起きている事に対してマイナスな発言が聞かれたが、研究後はマイナスな発言は減少し「早く起きたい」という意欲的な発言がよく聞かれるようになった。
- ・「トイレに行きたい」や「歩きたい」など前向きな発言が聞かれ、生活への意欲が見られるようになった。
- ・離床時間の増加により職員や他お客様とのコミュニケーションが増加、不満も聞き出せる関係を築ける。

○車椅子上の座位が不安定なお客様

- ・食事摂取に関し、介護皿の使用、口腔ケアについて自己の意見が多くなる。

- ・座位が安定し上肢を伸ばす動作がやりやすくなり、研究前には自己にて行えなかった足の挙上、靴をはくことやナースコール、テレビのリモコンを手にする行為が可能となる。また、「出来ない」という発言も少なくなった。

考察

姿勢の改善がみられ残存機能を活用できている。また、身体機能を維持し活動意欲の向上に繋がっている。

《5. まとめ、結論》

現在、ホームではアーチクッションを使用している方が全体の10%になりシーティングのかかせないものになっている。嚥下力が改善できない方にはリクライニング車椅子を使用している方が数名いる。最後の時期まで食堂で食事をしていただく方も最近は多く、職員全体にもシーティングの大切さが浸透している。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人ご家族に口頭にて確認し、本研究発表以外には使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し同意を得た。

《8. 提案と発信》

「椅子に座ってご飯をたべる」ということの大切さを職員はもちろん、お客様にも感じてほしい。お客様より「ここに来てよかった」との言葉が励みとなり、職員のモチベーションアップにつながった。食べて生きる、生きる支援をこれからも続けていく。

【メモ欄】